



# よろず健康相談事業報告

平成26年度

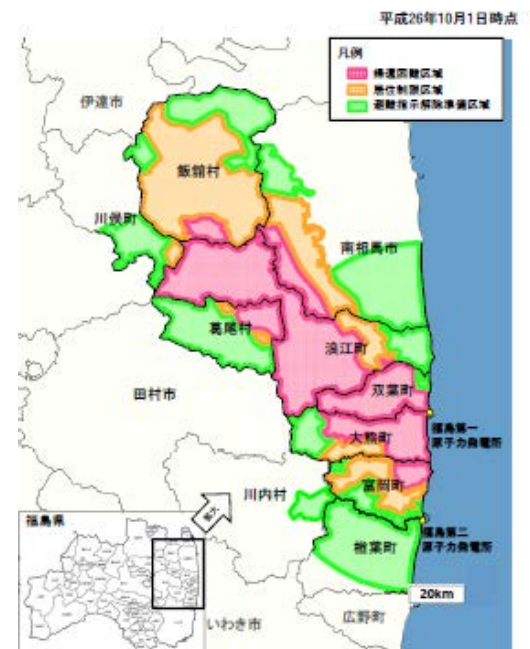
平成24年5月より、福島第一原子力発電所事故による避難を余儀なくされた区域を含む市町村の方々を対象に、個別健康相談を実施しています（当センターと福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター、放射線災害医療センター及び国立病院機構災害医療センターとの共同事業）※。

放射線健康不安が根強い福島で「よろず健康相談」を実施して3年。健康不安や避難に伴う様々な困難に直面する人々に寄り添いつつ、これまで災害医療に関わりの薄かった医療者が放射線災害の実態に触れ、福島の教訓を受け継ぐ貴重な教育の場にもなりました。相談員として全国から参加してくれた医療者・学生はのべ646名を超えています。

今年度の実績は、実施回数197回、相談件数1284件となっています。

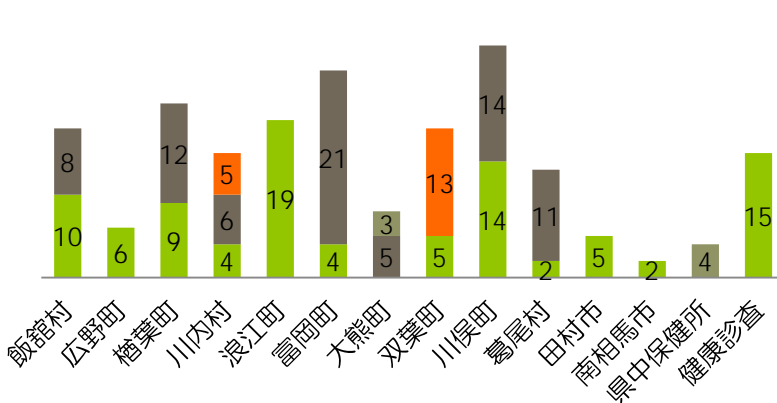
（※今年度は、飯舘村、広野町、楡葉町、川内村、浪江町、富岡町、大熊町、双葉町、川俣町、葛尾村、田村市、南相馬市の集団健診及び健診結果返却会等に併設して実施しました。）

## 実施市町村



## 市町村別実施回数

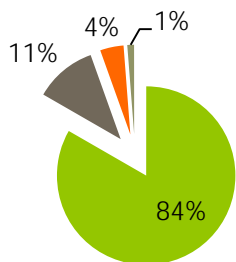
■ 集団検診 ■ 結果返却会 ■ がん検診 ■ 健康教室



（全実施回数197回分のグラフ。）※「健康診査」とは、福島県立医科大学が福島県からの委託を受けて、避難区域等の住民の方、および「基本調査」の結果、健康診査が必要と認められた方を対象に行っているものです。

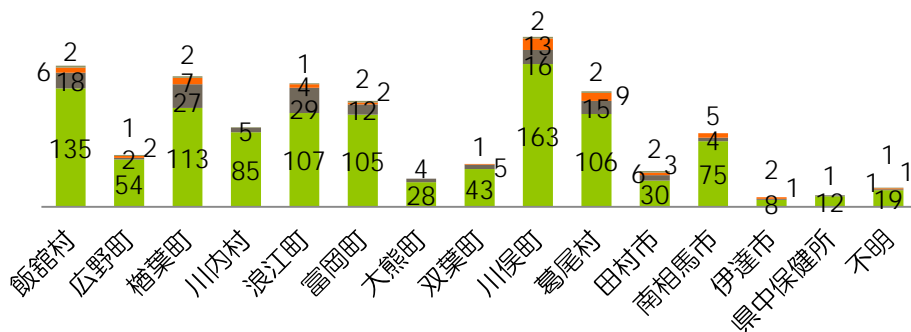
## ②相談内容内訳

- 身体症状に関すること
- ところに関すること
- 放射線に関すること
- その他



## ③市町村別相談内容内訳

- 身体症状に関すること
- ところに関すること
- 放射線に関すること
- その他



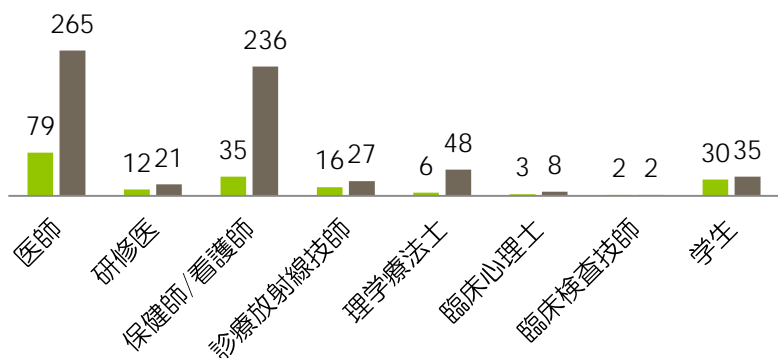
相談件数総数 1284 件（内訳：身体症状に関すること 1083 件、ところに関すること 146 件、放射線に関すること 55 件、その他 16 件。複数回答。）

## 参加者

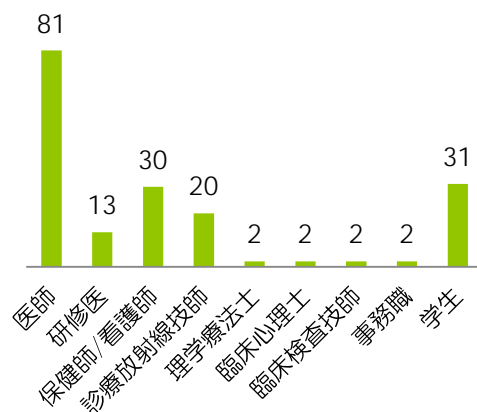
よろず健康相談事業に参加した、①職種別参加人数、②事前研修受講者数、③所属一覧は以下の通りです。

### ①職種別参加人数

- 実人数
- のべ人数



### ②事前研修受講者数



①実人数 183 名、のべ人数 642 名の内訳

②事前研修受講総数=89 名、実施回数 27 回（内 1 回は弘前大での出前講座）+福島災害医療セミナー 3 回+学生のための福島災害医療セミナー 3 回

### ③所属一覧

#### ■ 医療者

【福島県内】福島県立医科大学、池田記念病院、総合南東北病院、特老せいざん荘、塙厚生病院、かしま病院、JCHO 二本松病院、県立南会津病院、星総合病院、桜ヶ丘病院、会津中央病院、太田西ノ内病院、いわき市立総合磐城共立病院、公立岩瀬病院、二本松市、富岡町、双葉町、大熊町、県北保健福祉事務所、いわき市  
 【北海道】札幌医科大学附属病院【東北】弘前大学、鳴海病院、坂総合病院、岩手県立釜石病院【関東】筑波大学、災害医療センター、茨城県立中央病院、済生会宇都宮病院、横浜市立みなと赤十字病院、船橋二和病院、川崎市立川崎病院、大森赤十字病院、しおがま診療所、東京医科大学、神奈川県看護協会、東京都済生会中央病院、日本医科大学付属病院、聖マリアンナ医科大学病院、獨協医科大学病院、済生会横浜市東部病院、さいとう整形クリニック、あべ整形外科、リハビリの風【中部】富山大学、諏訪赤十字病院、岐阜市民病院、藤田保健衛生大学病院、セトゲイカリアイツ LLC、みなと医療生活協同組合協立総合病院、国立長寿医療研究センター、無所属（愛知）【関西】京都大学医学部附属病院、京都府立医科大学附属病院、近畿大学、京都第一赤十字病

院、滋賀医科大学医学部附属病院【中国】鳥取県立中央病院、鳥取大学医学部附属病院【九州・沖縄】産業医科大学病院、長崎大学病院、沖縄県立中部病院、鹿児島大学、熊本赤十字病院、阿蘇温泉病院

## ■学生

【北海道】北海道大学【東北】山形大学、福島県立医科大学【関東】聖路加国際大学、千葉大学【関西】奈良県立医科大学、大阪大学【九州・沖縄】長崎大学、熊本大学、鹿児島大学【海外】マウント・サイナイ大学、コロンビア大学、スタンフォード大学

## 参加者の感想

よろず健康相談に参加してくださった方の感想から。震災より3年経過した福島で、実際に被災されている方々と接する機会は、貴重な経験となりました。



### 学生より

住民の方々や現地で働く医療者の皆さんがどんな思いを抱えているのか、また体験談など話していただき、生の声を聞けてとても貴重な体験になった。さらに先生方の住民の方々とのコミュニケーションから、患者との関わり方という面でも学ぶことができた。

よろず健康相談に放射線のことを知らずには参加できないと思った。知識そのものが必要となることはないかもしれないが、そこに相談に来られる、生活しておられる方々の心情や当たり前のこと（自分には現実感がないもの）を痛感させられた。漠然とした根底にあるものを理解した上で関わることの大事さを知りました。また、普段、自分の健康を「損ねる」前から医療機関に気軽に相談できることはほとんどないので、このような機会は本当にありがたいし、驚くほど親切だと思いました。

理学療法士  
より

### 研修医 より

事前研修は放射線に対する基礎的な知識から福島の線量のこと、どのようなことが不安なのか、相談で最低限必要な知識を学ぶことができました。その後、実際に相談でお伝えできたこともあり、とても実践に基づいた研修であると感じました。また住民の方と直接話すことで、地域性や日々の暮らしを少しではありますが垣間見ることができ、自分だったらどうするのか、自分の問題として福島で生きていくことを考えるきっかけとなりました。大変微力ではありますが、今後も福島の復興に関わっていきたいと思いました。

話したいことは次から次へと出てくるが、相談の内容がまとまりのない印象を受けた。おそらくそれは、普段話を聞いてくれる人が回りにいないことや、相談するツールがないこと、不安感がついてまわっていることからくるのかもと思う。避難を余儀なくされている中で、孤立にさせない支援が重要であると学んだ。


看護師  
より

### 看護師 より

住民の方の放射線に関する様々な思いをお聞きすることができ、その複雑な状況と葛藤は想像を超えると実感しました。お話を伺った50歳代の方は、「放射線の影響は考えない、それよりも以前の暮らしに戻りたい」というご両親世代と、影響を懸念する自分の子供/孫世代の間に位置し、情報を集め、安全だと納得して、納得してはまた揺れる・・・ということを繰り返していました。医療者はつい、問題解決思考になりがちですが、揺れる思いを共有して気持ちの落としどころを見つけるまで、時間と空間を共有しながら待つことが求められていると感じました。



★詳細はHP <http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/ecdm/index.html> をご覧ください。

【お問合せ先】  [ecdm@fmu.ac.jp](mailto:ecdm@fmu.ac.jp) 福島県立医科大学 災害医療総合学習センター